「一人一人が社会的事象と関わり、豊かな見方・考え方を育む社会科学習」
～新聞の活用を通して～

指定校２年次　安曇野市立穂高東中学校
林　邦彦　滝澤直子　臼井慎詞　山本幸治　小林かおる

Ⅰ　本校の新聞活用（ＮＩＥ）の取組

１　指定校１年次

全校の活動として、社会的事象に興味をもたせるために朝の時間を利用した毎週１回の「新聞スクラップ」の活動を行ったり、国語科の目標に照らし合わせ、国語科において授業での新聞の活用に取り組んだりした。

【成果】新聞に親しみ社会的事象に触れる機会が増えた。

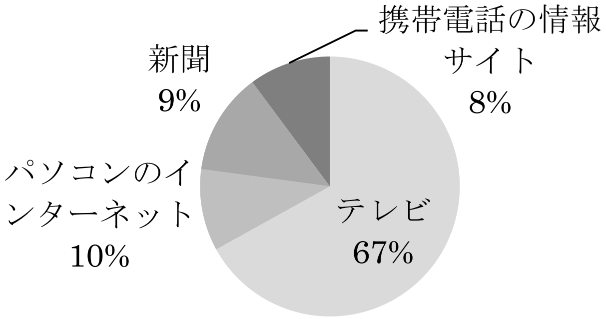
【課題】新聞スクラップの活動では全生徒への新聞の手配が難しかったり、テーマの絞り方や記事の取り上げ方など個別指導が必要であったりと、生徒や教師の負担が大きかった。また生徒の中には記事の内容を十分読み取れず、社会的事象に対する見方・考え方を十分深めるところまではいかなかった。

２　指定校２年次（社会科）

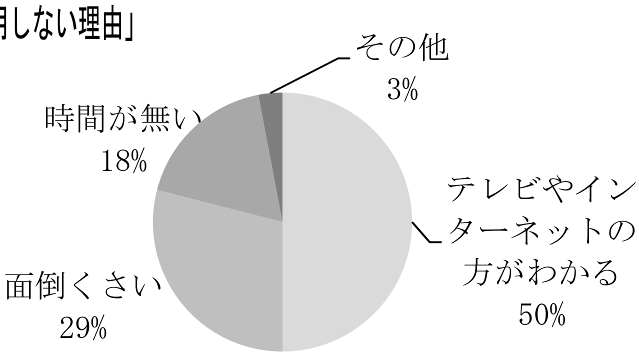
（１）本校生徒の実態把握

① アンケート 10 月実施　　実施人数１・２年生　89 名

「世の中のできごとや動きを知るために主に利用しているもの」



「新聞などの活字メディアを利用しない理由」



上記のアンケート結果､生徒は新聞など活字メディアからの情報入手する経験が少ない。また自ら情報を入手し必要な情報を取捨選択する機会が少ない、ということが明らかになった。

② 社会科の授業で新聞を使う学習効果

「世界各地の人々の生活と環境　～低い土地に暮らす人～」(１年生）から

土地が低いタイ・バンコクのくらしを特徴づけるものとして「雨季」があげられる。雨季の存在を気づかせるためにバンコクの気温や年降水量などをグラフとして表した

雨温図、比較のために他の熱帯地域や東京（温帯地域）の雨温図に加え、新聞記事を提示した。

〈生徒の反応〉

S5:特に印象に残ったことは、百万人に避難準備要請が出されたことです。タイの首都は2000世帯も避難勧告が出されたり、すごいと思った。タイの人たちの大変さがすごく伝わってきた。こんなとこでどうやってくらしているんだろう。

S6:お母さんがちょうど車を買うときで、そのときにタイから部品が来るみたいで、車がくるのがすごく遅くなりました。そのときは「なんで？」って思ったけれど、(今は)タイの人たちはとても大変だったから仕方がないと思います。

＊「タイの洪水の新聞記事」
(2011.10.20 信毎)

2011.10.20信毎

タイ首都2000世帯 避難勧告
100万人に避難準備要請

【バンコク共同】タイの洪水で、首都バンコクのスクムバン知事は19日夕、防水堤が決壊する恐れがあるとして、北部サイマイ地区の約2千世帯に避難を勧告した。洪水が首都に迫った先週以降、バンコク市民に避難勧告が出たのは初めて。知事は、中部アユタヤ県などに大規模な被害をもたらした大量の水が20日夜にもバンコクに到達する可能性があると述べ、警戒を強化するよう呼び掛けた。

知事はまた、サイマイ地区を含む首都北部と東部の計7地区に洪水警報を出し、サイマイ地区以外の住民にはいつでも避難できる準備をするよう求めた。対象は約100万人。サイマイ地区のすぐ西には、政府の洪水被害対策センターが置かれるドンムアン空港がある。空港は国内線を中心に民間航空会社の定期便も飛んでおり、空港にまで被害が及べば、影響は一段と拡大する。

在タイ日本大使館によると、サイマイ地区には日本人35家族、計58人が住んでいる。

バンコクの日本人学校は20、21日を臨時休校とした。

避難勧告が出された約2千世帯のうち、防水堤より内側のホックワー運河沿いに住む約200世帯は、同地区内の計12の学校に即時避難するよう求められた。

タイの大規模洪水　7月下旬から続く大雨の影響で、タイの各地で大規模な洪水被害が発生、10月18日までに315人が死亡した。日系企業も多数入居するパトゥムタニ県にあるタイ最大の工業団地や、中部アユタヤ県の工業団地も浸水、多くの工場が操業停止になるなど深刻な影響が出ている。バンコクでは首都中心部に大量の水があふれ出すのを防ぐため、軍を動員し土のうを積み上げるなど防護壁の強化に全力を挙げているがインラック首相の指導力不足を指摘する声も出ている。

バンコク北部の運河沿いで、浸水した自宅から避難する住民ら＝19日（共同）

新聞記事を提示したことにより、生徒は見出しからタイでどのような洪水の被害を受け、人々がどのような状況に置かれているのか理解することにつながった。また、大変な思いをしたタイの人々へ思いをよせた姿も感じ取ることができた。Ｓ６生のように、新聞記事の見出しからタイの工業団地が被災したことを改めて知り、自分の生活とも密接に関係しているということを再確認した。

（２）実態を受けた取組

上記のアンケートや授業での新聞を扱った結果、指定校１年次の取組の成果と課題をふまえ、生徒も簡単に取り組め、また新聞に親しむ機会を生み、効果も期待できる「新聞見出しスクラップ」を行った。ＮＩＥ事務局から提供された新聞を廊下に掲示し、スクラップでなくとも見出しをノートにメモし転載することだけでもよしとした。初めは見出しだけ書いてきた生徒も自分の考えを記すようになった。

～事例から～

～Ａ生の取組～

9/17　「台風18号被害相次ぐ　台風列島縦断3人死亡　5人不明初の特別警報」
とてもめったにない大きい被害で特別警報も発生したし、ニュースなどで川が氾濫した様子など見てとてもびっくりした。広い範囲に大雨で土砂崩れなどの警報が出た。

9/26　「JR北海道放置97カ所　レール不具合　高低差　ゆがみも」
今日の新聞でもまた 170 カ所も見つかって多く放置しているところがあって驚いた。JR北海道で異常が何カ所もあって問題だと思った。

10/3　「消費税8%決定　経済再生と財政健全化評価」
引き上げが 17 年ぶりでこのままだとどんどん上がっていくので困ると思った。僕は日本は借金しているけれど、税は上げないでほしいと思った。

～Ｂ生の取組～

9/17　「レスリング残留確実　野球ソフトなど退け」
僕はレスリングが残って良かったと思いました。日本中の人も喜びに満ちあふれていると思います。

9/24　「新Ｉ－ＰＨＯＮＥ　９００万台突破　　発売３日間過去最高の滑り出し」
９００万台突破するなんてすごいことだなと思いました。

10/7　「9時間27分10秒83　ギネス記録達成　50㍍×１０００人水泳リレー」
50㍍ずつ1000人が泳いでリレーし、合計タイムでギネスに挑戦するというのがすごいと思いました。またアンカーをつとめた島田さんは先天性の病気で左半身に障害があるにもかかわらず泳ぎ切ったのでとてもすばらしいなと思い、僕も努力をして出来るようにしようと思いました。

Ａ生ははじめ見出しにある事実にだけ着目していたが、次第にその背後にある事象や影響に目を向けるようになってきている。Ｂ生はスポーツや情報端末機器など自分の興味のあることに関係する記事を選んでくるが、回数を重ねるにつれて、見出しの内容だけでなく、記事の内容にも着目し読み進めていることがわかる。そして記事の中の人物の姿にも触れ、自分に重ねて読み深めることが出来ている。見出しチェックにより新たな社会的事象に関わりがうまれ、社会的事象への見方が広まり深まった姿が出てきている。

Ⅱ　育てたい力

・社会的事象を自分との関わりで捉えることができる
・人々の営みに心をよせ、自分の考えに根拠を持ち、新たな考えと出会い自分の考えを再構成していくことができる。

Ⅲ　研究の概要

1　研究の視点

社会科の授業での新聞記事の「見出し」の活用

信濃毎日新聞社のデーターベースに登録。教師は単元の目標に照らし合わせ学習問題設定に使う記事や追究していく際の資料となる記事（見出し）をピックアップし授業で活用していく。見出しは社会的事象を的確な言葉で端的に表しており、新聞記事を読み込めない生徒にとっても印象的な言葉で社会事象をとらえることができる。新聞の見出しから判断し必要な情報を記事から探したり、見出しの意味を記事の中に求めたりすることで、自分にとって必要な情報を探して得る力が付くと考えた。また、新聞記事は、一つの社会事象でも様々な視点で記事が書かれており、多角的に社会的事象をとらえる力を付けさせることが可能である。そして、人々の営みについて書かれた新聞記事を取りあげることで、生徒達が主題図や資料集から得た環境条件の知識と、新聞記事から学んだ人々の営みを関連付けて、社会的事象を多面的・多角的に見る力が育まれると考えた。

2　授業実践　《２年社会科》

（１）単元名　「世界から見た日本の人口」

（２）ねらい

本単元では、日本は世界的に見ると人口が集中している国にもかかわらず、国内では人口の偏りがあり、過疎や過密、少子高齢化などの問題が起きているという特色について大観することをねらっている。人がたくさん住むところ・人があまり住まないところはどんな地域かとらえていく過程では、これまでの学習で学んだ日本の地形・気候、世界の諸地域で学習した産業など、既習事項の内容と結びつけて考えさせたい。また、過疎過密の問題を考える際には、人がたくさん住むところは住みやすい環境が整っていると考えていた生徒が、待機児童の問題や住宅不足の新聞記事に触れることで過密地域の問題点に気づいたり、人があまり住まないところは不便と考えていた生徒が、移動販売や町おこし・村おこしなどの努力をしている人々を紹介した新聞記事から、地域をよくするために努力している人々の営みを知ったりすることを通して、過疎・過密地域の見方・考え方を広め深めていく。

（３）単元展開の大要

①世界の人口集中と人口変化

…人口が集中する場所はどんな特徴があるか地図帳を活用して、地形・気候、産業と結びつけて考える。

②日本の人口変化

…予測されている未来の人口ピラミッドを見せ、日本の人口問題について理解する。少子高齢化に関する新聞記事から、少子高齢化が日本の課題であることをつかむ。

③日本の人口分布の特色

…地図帳を活用し、日本の人口分布図から人口が偏る理由を調べる。

④過疎・過密地域の特色（授業実践）

…新聞記事から人がたくさん集まるところ、人があまり集まらないところの特色を理解し、新聞記事を通して人々の営みに触れることで過疎・過密地域への見方・考え方を広め深める。

（４）本時の授業

①主眼

日本の人口に偏りがある理由について地形・気候・産業の視点から人がたくさん住むところは住みやすく、人があまり住まないところは不便なところだと考えた生徒が、それぞれの地域はどんなところか考える場面で、新聞記事の見出しを「人がたくさん住むところ」と「人があまり住まないところ」に分類し、新聞記事から読み取ったそれぞれの地域についてわかったことを書き出すことを通して、それぞれの地域の問題やそれを克服する取り組みに気づき、過疎地域と過密地域の特徴について自分の言葉で説明することができる。

②展開

<table>
<tr><th>段階</th><th>学習活動</th><th>予想される生徒の反応</th><th>時間</th><th>教師の手立て　評価</th></tr>
<tr><td>導入</td><td>前時に調べた内容を記入した座席表を見て、クラスメイトの考えを知る。</td><td>・人口が多いところは、交通網が発達している。
・会社や工場が多いところに人口が集中している。
・山間地には人が少ない。
・人があまりいないところは工業が発達していない。</td><td>5</td><td>・前時に書いた「人がたくさん住むところ」「人があまり住まないところ」の座席表を配布する。
・それぞれの地域の特色を「交通」「産業」「地形」などに分けて黒板に書く。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">展開</td><td colspan="4">＜学習問題＞人がたくさん住むところ・人があまり住まないところはどのようなところか</td></tr>
<tr><td>本時の課題を把握する</td><td>・人々がどのようなくらしをしているか調べてみたいな。</td><td></td><td>・人々のくらしをイメージしやすくするため、「過疎」「過密」の言葉は最後に説明する。
・黒板で書き出した情報には人々のくらしについての情報がないことを確認する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">＜学習課題＞　新聞記事を読んで、人々のくらしから、「人がたくさん住むところ」「人があまり住まないところ」はどんなところか考えよう。</td></tr>
<tr><td>グループごとに、新聞の見出しを「人がたくさん住むところ」「人があまり住まないところ」に分類し、全体で確認する。

記事から読み取ってわかったことを書き出す。</td><td>・この見出しは「住宅不足」とあるから、人がたくさん住む地域の記事かな。
・見出しに「開かずの踏切」とあるけど、どういうことだろう。記事を読んでみよう。
・「木島線廃線」とある。なぜ路線が廃止されるのだろう。記事に利用者が減ったとあるから、人が住まないところの記事だろう。

・人がたくさん住むところでは、住宅不足が起きていた。
・人があまり住まないところでは「地域おこし協力隊」という人が地域の活性化に一役かっている。</td><td>30</td><td>・４人１組グループにさせる。
・グループで「人がたくさん住むところ」「人があまり住まないところ」に分類した記事を模造紙に貼らせる。
・分類する際、迷う記事は判断できない理由をはっきりさせ、追求方法について助言する。

・新聞の見出しを分類する作業の中で、新聞の記事や友との会話の中から得た情報を書き出すよう、指示する。</td></tr>
<tr><td>まとめ</td><td>学習プリント「人がたくさん住むところ」「人があまりすまないとこ</td><td>・人があまり住まないところは、限界集落や線路の廃線などの問題が起こっている。
・人がたくさん住むところは平地で働く場所もあって、住みやすいところ</td><td>10</td><td></td></tr>
</table>

	ろ」をまとめ、発表する。 それぞれの地域の見方がどのように変わったか書く。	だと思ったが、待機児童の問題が起こっている。 ・過密地域は、土地が高いからシェアハウスで住むなど工夫して暮らしている人々もいる。 ・人々のくらしを見ることによって、過密や過疎のイメージが変わった。	5	評価 A：過疎・過密地域の問題や、それを克服しようとする人々の営みに触れている。 B：過疎・過密の問題点を説明できる。 C：過疎・過密の特徴に触れられない。 C 評価の生徒は、画用紙に書いたことを確認させながら、それぞれの特徴をつかませる。

〈使用した新聞見出し・リード文〉
＊教師がデーターベースから教材化

資料　本時扱う新聞記事（人がたくさん住むところ＝過密地域）
＊アルファベットは資料番号

資料　本時扱う新聞記事（人があまり住まないところ＝過疎地域）
＊アルファベットは資料番号

３　考察

（１）新聞記事にある人々の営みから過疎・過密に関する見方・考え方を広め深めた生徒

- 私は人が多いところでは、あまり大きな問題がなく住みやすいところだと思っていたけれど、保育園になかなか入れなかったり、交通事故が多かったりと大変なことがたくさんあるのだと感じました。でもサービスは充実しています。
- 人があまり住まないところでは電車がなくなったり、ガソリンスタンドがなくなったり不便なこともあるけれど、そこでしかできないことがあることがわかった。団結して生活している。
- 人があまり住まないところでは呼びかけ次第で人がたくさん住むところから移ってきてくれるのではないかと思った。

新聞記事から過疎・過密のくらしの特色を分類していくなかで、それぞれ良い点、困難点があることをつかみ、過疎・過密について見方を広めたり深めたりすることができた。中国四国地方での町おこし村おこしに関わってのテーマ学習につながる課題も生み出された。

（２）見出し・リード文を取り上げたことにより主体的な追究をした生徒

新聞記事を読み込むことが出来ない生徒も、興味を引く見出しやわかりやすいリード文を読むことで過疎・過密の特徴を理解することができた。

Ⅳ　研究のまとめ

新聞を授業で扱うことのよさはさまざまなところで語られており十分納得できるものであったが、しかし実際のところ、進度や授業時数の関係で新聞を十分に扱うことは出来なかった。また実際に新聞を授業で使った際には、生徒が新聞記事を十分に読み込めず主眼の達成につながることは難しかった。しかし２年間の指定校研究の中で新聞スクラップを行い新聞に親しむ素地をつくり、そして生徒の実態から進めた新聞を扱うことの価値について具体的に授業の中で実証できたことは大きな成果であった。２年目の研究では、社会科としてつける力を明確にし、新聞社のデーターベースを活用し必要な資料をあつめ教材化を進めていった。人々の営みがさまざまな角度から記されている新聞記事、なかでも記事を端的に表す見出しやリード文を使うことにより、多面的多角的な見方考え方を培うことに大きな成果があったことと思う。

Ⅴ　残された課題

指定校研究がはずれてもデーターベースの活用を継続していく環境を整え、今年度の取組を継続させていきたい。